悔い改め

「悔い改め」は、英語圏で特に誤解されやすい言葉です。

次に救いに至る悔い改めではないものを上げて見ましょう。

1. それは、罪を遺憾に思うことではありません。
2. それは、罪をざんげし、人生を正すことではありません。
3. それは、人生を神に明け渡して神が人生の先導者になるということではありません。

救いに至る悔い改めとは、自分の罪を遺憾に思ったり、罪をざんげしたりすることとは一切関係ありません。実に神は私たちを有りのままの姿でお救いになりたいのです。聖書は次のように教えています。

> **「しかし、私たちがまだ罪人であった時、キリストが私たちのために死んで下さった。」** **(ローマ人5章8節)**

救いに至る悔い改めとは次のように定義します。

救いに至る悔い改めとは、宗教とか、儀式とか、律法に忠実であることによって永遠の命を獲得しようとする思いを改めることです。

「悔い改め」という言葉をギリシャ語に照らし合わせて見ると、それは、「思いを変える」という意味です。だれでも良い行ないによって永遠の命を獲得できると思う者は、自分のこの思いを変える、つまり悔い改める必要があると、み言葉は教えています。人は自分の行ないに頼るのではなく、神を信じることによってのみ救われるという、この恵みの原理に立ち返るべきです。

マタイ伝3章7ー9節に、宗教指導者たちは本当に自分たちは天国に行けると信じていました。それは自分たちこそユダヤ人の父であるアブラハムの子孫であったからです。神はユダヤ人を選民とし、そこに宗教を設定しました。宗教指導者たちは、正に自分たちこそ正当な宗教のただ中にいるので、必ず天国に行けると信じていました。しかしバプテストのヨハネが現われて、この人たちこそ悔い改めなければならないと断言しました。それは、自分の宗教を行なうことによって天国に行けるという思いを根本的に変えなければならないということを意味します。

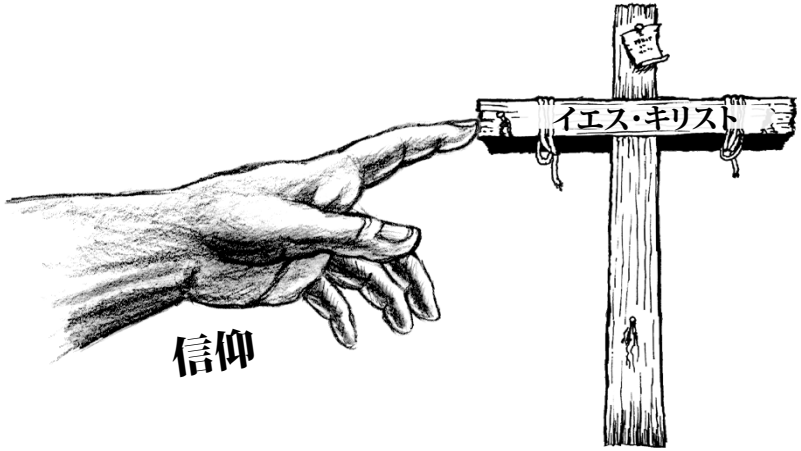
信仰：人のキリストへの応答

イエスは人を罪から救うため、すべての業をまっとうしました。しかし、キリストの十字架の死によって完成された救いの恩恵にあずかるには、イエスの犠牲の死による救いのみ業と、そのイエスを心から信じることが必要です。

> **「人は律法の行ないによっては義と認められず、ただイエス・キリストを信じる信仰によって義と認められることを知ったので、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。それは、律法の行ないによるのではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜなら、律法の行ないによって義と認められる者は、ひとりもいないからです。」**
> **(ガラテヤ人2章16節)**

> **「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者が、ひとりも滅びないで永遠の命を得るためです。」**
> **(ヨハネ伝3章16節)**

（新約聖書には、永遠の命を得る唯一の条件は、イエスを信じる信仰であると160箇所以上にもわたって述べられています。その代表聖句は、ヨハネ伝1:7、12;3:18;5:24;6:29などです。）



信仰(信じること)は、私たちの手にたとえられるかもしれません。それは、イエス・キリストの内に宿る永遠の命を、いただこうと差し延べる手のようなものです。

> **「この世が自分の知恵によって神を認めることがないのは、神の知恵によるのです。そこで神が宣教のことばの愚かさによって、信じる者を救うことはみこころにかなっています。」** **(第1コリント人1章21節)**